

今年の念の正 平和と安心を、私たちの手に!

西澤会長年頭挨拶

正月の静かなたたずまいに時間が流れて行きます。

しかし、この空間を離れると平和と自由の危機的状況が見えます。昨年暮れ、パリで同時多発テロが起こり、先進・旧宗主国は競って空爆に参加しました。その爆撃で、この瞬間にも砂漠の中の小さな村で、逃げ惑う子どもや国を逃れて彷徨う人たちがいます。しかし、テロに怒った人々は、同じ目線でもっと多くの人たちが傷つき命を失っているという事実は見えません。オ



第21回組織活動交流集会で挨拶する西澤会長

ランド大統領が「戦争宣言」し戒厳令を敷いた瞬間に仏憲法は失われ、17州議会選挙では極右政党が躍進しました。翻って今の日本を見ると、「違憲国家」状態といえます。戦争法案はもちろん憲法第53条に基づく臨時国会開催要求も安倍政権は無視し、TPPは条約文の日本訳を作成せず国民に説明しない。批准も国内法の成立もなしに予算措置を進める既成事実づくり。これが立憲主義に基づく近代国家なのでしょいか。

戦後、70年を節目に日本は「違憲の戦争をする国」に大きく様変わりしました。その先頭に置かれたのが沖縄です。アメリカのアジア地域で行う戦争のお先棒を担がされる日本。その発進基地にベトナム戦争に続き沖縄が使われるのです。戦争を肌で感じる沖縄県民は「島ぐるみ」で反対しています。国は、県民の意思



夏の参議院選挙に向け精力的に活動するあなたに参議院議員(新潟、10月16日)

10月に「日本の量的緩和策、リフレ策は失敗した」趣旨の発表をしました。また、国民につけが回ってくるでしょう。許せません。

今年、6月から7月に参議院選挙が予定されています。憲法違反状態の日本を糺し、平和と自由そして正義を取り戻す絶好の機会です。しかし一方、選挙敗北は日本の将来の危機を意味します。正念場です。安倍政権は、自らの有利な選挙期日設定のために、通常国会を1月初頭からという異例の日から始めるといっています。私たちも年頭より備えなければなりません。統一した勢力の結集が急務です。声を出し、行動し、仲間を増やし、日退教運動をさらに前進させ、平和憲法の理念(平和と自由・人権・環境・民主主義)を取り戻し、生活を守るために今年も全力で生き抜きましょう。

また、鳴り物入りで進めてきた誤りの経済政策(アベクロノミクス)により、円安・株高をもたらしたものの、労働者の実質賃金は下がり、GDPは伸びず輸入物価は上がりました。経済格差は広がり、医療・介護・社会保障の改悪など綻びがはつきりし、私たちの生活は苦しくなっています。クルーグマンは昨年

2016年1月

日本退職教職員協議会

会長 西澤 清



富永教授

第22回

五者学習会報告

2015年10月15日

ストレス社会とのつきあい方

兵庫教育大学大学院・教授・博士（心理学）

富永良喜さん

ストレスには、ストレッチ（出来事・環境）と、ストレス反応（心身の変化）と、ストレス対処の3つがある。怒りや緊張に対してどんな心身の変化が起き、どう対処すればいいのか、実際に会場で近くのひとと話し合い、また同じ怒りでも相手に伝える言葉を変えることで、異なった人間関係がつくられることを確認した。対処法として自分の怒りの面倒をみてあげるための深呼吸の大切さも紹介された。落ち着くために、肩を開き力を抜く方法も参加者全員で試してみた。

いじめ解決力を身につけることが必要である。教育の場で、ストレスをマネジメントする方法を身につけ自己を傷つけない怒りや悲しみの方法を学べる取りくみが求められている。

災害も、大きなストレス反応を起こすことが知られている。トラウマ反応から回復する人とストレス障害になる人があり、毎日出会う身近な大人がサポートの知識を持っているかで違ってくる。また、災害から時間を経た後にストレス反応が現れることもあり、サポートには長期的視野が欠かせない。人は苦難から回復できる力も持ち、さらにはそれが自己を成長させるエネルギーになることもある。阪神淡路大震災後の調査では、震災に向き合う時は向き合い、語り合い分かち合った対処をした人には、ストレス反応が低かった。避難訓練でかえって不安

が増してしまう子どももいるが、心のサポートと一体化した防災教育が大変有効であることを全国に発信してほしい。「日本心理臨床学会」のHPに心のサポートに配慮した岩手の小学校の避難訓練の実践例がある。また「いわて子どもこのころのサポートチーム」の実践もある。

いじめが大きく報道されている今日、また、自然災害がいつどこで起こるかもしれない不安を抱えた今日こそ、学校や社会教育に、そして教職員自身にもストレスマネジメントが必要である。結果対応的な政策だけではなく、予防的開発的なストレスマネジメント政策の充実を提起したい。

連帯カンパのお願い

日退教第44回定期総会で2015年度連帯カンパ（沖縄、東日本大震災、戦争法）に取り組むことを決定しました。しかし、戦争法案は9月19日強行採決により可決成立したため、新たに廃案に向け運動を進めています。今年度は、多くの単会が、独自の行動に取り組んでいます。

11月現在、昨年の211万円を大きく下回り、52万円しか集まっています。

まだの単会は2月末をめどによりしく願います。

これからの社会保障の課題

慶應義塾大学商学部教授 (社会保障・経済政策)

権丈 善一

私の問題意識は次の「この10年、社会保障は政争の具とされ、現制度は憎悪の対象として政治的に仕立てられ、国民の意識に社会保障への誤解による制度への憎しみが刻まれた。今進めている改革には、社会保障への国民の理解と協力が必要である。」に要約される。

2007年7月の参院選で自民が敗れ、社会保障で方向転換し、「社会保障国民会議」が作られ、その改



権丈教授

革方針が出され、財源として消費税を上げた。社会保障の問題は医療と介護だ。10年後団塊世代が75歳に達する。今年金を受けている世代は得だというのが根柢は不明だ。このままではいけないと思いい問題提起した。しかし、出された原案の具体化の議論が別なことで費やされ10年過ぎた。

多額の赤字国債の将来世代への負担を巡る議論があるが、北欧に比べ、日本の少子高齢化は急速だ。政権交代後、鳩山さんの後の菅さんは、与謝野さんや国民会議事務局の人などを呼び、私も加わった。年金の基本的な議論は終え、後は実行あるのみである。国保を都道府県保険者にし、地域全体のネットワークで行き場のない患者をどう診るかが課題だ。戦後、診療所を拡

張して病院とし、医療費は低く抑えられたが、これを地域完結型の医療に切り換える必要がある。介護と医療は一体。病気治療と生活上サポートの医療を実現するシステムを作るのが課題だ。

年金の課題は、将来給付額が減ること。年金は長期保険で賦課方式ならば即破綻とはならない。若い世代を生活保護受給者にさせなくするにはどうするか、それが我々の問題意識であり、年金改革のポイントだ。給付水準を上げるにはどうするか。働いている1号の人々は非正規・低額保険・低額給付なので、被用者保険に入りたいが、事業者が抵抗する。次に、20歳で厚生・国民年金加入、65歳年金支給開始、保険期間65歳まで、で支払期間5年延長、

給付1割増加になる。給付水準も上昇で、国庫負担は1兆円増える。給付水準を上げる道筋は出来ている。GDPに占める給付は高くないのに、高齢者は裕福だというキャンペーンが張られる。歳出と財源は国会で決めている。予算は歳出オーバーだが、それが赤字の主因ではない。20世紀先進国が教育と社会保障を獲得し、その分増えたのだ。積立方式・世代間格差で言い争い、肝心な所にエネルギーが集中できない。これが社会保障の問題だ。今の給付水準では生活保護に頼るしかない。

に起こっているが、公を憎む国民に福祉国家は出来ない。

社会保障とは何か。社会保障給付費は110兆円(2013年)だが、生活保護費現金給付額はその1%だ。年金は実質生活水準を維持できる終身的な制度だ。2004年改革で保険料率は18・3%で固定される。後年賃金変動でも入金は同じ、これをどう分け合い、分配するかだ。それを可能にするバランスある制度を作るしかない。年金改革は即やらないと生活保護増加、給付低下になる。とにかく前向きにやろう。

民主主義ってなんだ!

沖縄辺野古新基地建設反対の民意を示そう
日退教沖縄交流

「辺野古キャンプシュワブ・ゲート前座り込み」

12月2日、沖縄県名護市辺野古での新基地建設めぐり、翁長雄志沖縄県知事による「辺野古埋め立て承認取り消し」を執行停止するように求め、国土交通相が提起した代執行訴訟の第1回口頭弁論が、福岡高裁那覇支部(多見谷寿郎裁判長)で始まりました。「被告」本人である翁長知事が出廷して意見陳述し、沖縄の過重な基地負担の歴史・現状

安倍政権はこれまで選挙のたびに示された民意を無視し続け、辺野古新基地建設を強行しています。私たちが日退教は、沖縄県・高退教の協力のもと、2010年度から、「普天間基地撤去、辺野古新基地建設反対」を求め、「沖縄と連帯する

日退教交流団」を5年間にわたり組織し、行動してきました。今年度は第6次沖縄交流として5月から10月まで6回にわたり、月1度の辺野古キャンプシュワブ・ゲート前座り込みに参加してきました。参加人数は延べ86人。(この行動とは別に独自交流をかさねた単会もあります。)

集団的自衛権行使を含む「戦争法」を強行した安倍政権。福島第一原発事故の処理がコントロールできないうちに再稼働を行う安倍政権。この政権がすすめる新基地建設。厳しいたたかいです。私たちが諦めることなく運動にとりくみます。



11・29 辺野古に基地を造らせない大集会 (日比谷野音)



5月 辺野古テント



8月 辺野古浜



6月 辺野古テント



9月 辺野古テント



7月 高江テント



10月 大浦湾・瀬嵩浜

沖縄と連帯する日退教第6次交流団 (月1辺野古座り込み) 参加者

| | | |
|-----|--|---|
| 5月 | 北海道7、神奈川高2、京都2、福岡4、事務局1 | ⑩ |
| 6月 | 事務局1 | ① |
| 7月 | 東京高13、神奈川2、神奈川高10 (内1現職)、石川高2、福岡1、事務局1 | ⑳ |
| 8月 | 北海道7、石川高2、石川1、埼玉1、大阪6、事務局1 | ⑱ |
| 9月 | 埼玉2、神奈川高3、大分1 事務局1 | ⑦ |
| 10月 | 高知4、愛知1、福岡8 北海道1、事務局1 | ⑮ |
| | (他に 単会独自行動) | |

◆編集後記◆

今年には私にとって、かなり忙しい年になりそうです。原爆絵画展実行委員会は、第24回の開催に向けて、半年前の会場予約抽選会が1月4日にあります。これは、第2希望の7月末の土日開催の予約です。そして、2月1日には第1希望の8月上旬の抽選会に臨みます。そして、月1回の実行委員会では展示内容や特別企画講演会の人選が話し合われます。昨年は、埼玉退教の沖松信夫会長から「特攻兵士の体験」を聞きました。90歳にも拘らず、とても元気で50分間立ったままのお話でした。出撃命令は敗戦の日の午後3時ということでした。当日、60席を用意した会場では座れない人も出たほどでした。6月には、坂戸・鶴ヶ島市内の小4年生から中学3年生全員に配布するチラシ11,000枚の印刷を予定しています。昨年の活動様子はネットで「原爆絵画展第23回」で検索できます。

4月には坂戸市議選があり、退教会員で日政連議員の仲間が3期目の立候補をします。何としても当選させるため、議会報告配布や個々面接等、出来る限りの応援をするつもりです。毎月19日は戦争法廃案に向けての国会周辺行動があります。この行動にも、極力参加します。

7月には参院選があり、この選挙で民主党を中心とする戦争法反対の議員が、過半数を取れるよう全力を出します。全国の仲間みなさん、まさに正念場の闘いになります。ともにがんばり、良い年にしましょう。(ま)